

第 1 章

概 要

注) 単位未満は四捨五入しているので、合計の数字と内訳は必ずしも一致しない。

第1 人口動態の概要

本県における平成20年の出生、死亡、自然増加数、死産、周産期死亡、婚姻及び離婚の概要は表1に示すとおりで、平成19年と比べ、出生、死亡が増加し、その他は減少している。

表1 人口動態の年間発生件数（青森県）

	実数			率(注:3)		平均発生間隔	
	平成20年	平成19年	対前年増減	平成20年	平成19年	平成20年	平成19年
出生	10,187	10,162	25	7.3	7.2	時分秒 51'44"	時分秒 51'43"
死亡	15,400	14,968	432	11.1	10.7	34'13"	35'07"
乳児死亡	21	26	△5	2.1	2.6	418°17'09"	336°55'23"
新生児死亡	11	17	△6	1.1	1.7	798°32'44"	515°17'39"
自然増加	△5,213	△4,806	△407	△3.8	△3.4
死産	290	311	△21	27.7	29.7	30°17'23"	28°10'02"
自然死産	130	131	△1	12.4	12.5	67°34'09"	66°21'49"
人工死産	160	180	△20	15.3	17.2	54°54'00"	48°56'19"
周産期死亡	45	55	△10	4.4	5.4	195°12'00"	159°16'22"
妊娠満22週以後の死産	37	41	△4	3.6	4.0	237°24'19"	213°39'31"
早期新生児死亡	8	14	△6	0.8	1.4	1,098°00'00"	625°42'51"
婚姻	6,401	6,405	△4	4.6	4.6	1°22'20"	1°22'04"
離婚	2,828	3,014	△186	2.04	2.15	3°06'22"	2°54'23"

	平成20年	平成19年
合計特殊出生率(青森県)	1.30	1.28

(全国)

	実数			率(注:3)		平均発生間隔	
	平成20年	平成19年	対前年増減	平成20年	平成19年	平成20年	平成19年
出生	1,091,156	1,089,818	1,338	8.7	8.6	時分秒 00'29"	時分秒 00'29"
死亡	1,142,407	1,108,334	34,073	9.1	8.8	00'28"	00'28"
乳児死亡	2,798	2,828	△30	2.6	2.6	3°08'22"	3°05'51"
新生児死亡	1,331	1,434	△103	1.2	1.3	6°35'58"	6°06'32"
自然増加	△51,251	△18,516	△32,735	△0.4	△0.1
死産	28,177	29,313	△1,136	25.2	26.2	18'42"	17'56"
自然死産	12,625	13,107	△482	11.3	11.7	41'45"	40'06"
人工死産	15,552	16,206	△654	13.9	14.5	33'53"	32'26"
周産期死亡	4,720	4,906	△186	4.3	4.5	1°51'40"	1°47'08"
妊娠満22週以後の死産	3,751	3,854	△103	3.4	3.5	2°20'30"	2°16'23"
早期新生児死亡	969	1,052	△83	0.9	1.0	9°03'54"	8°19'37"
婚姻	726,106	719,822	6,284	5.8	5.7	00'44"	00'44"
離婚	251,136	254,832	△3,696	1.99	2.02	02'06"	02'04"

	平成20年	平成19年
合計特殊出生率(全国)	1.37	1.34

注:1) 青森県の基礎人口は平成20年が1,388,000人、平成19年が1,403,000人である。

注:2) 全国の基礎人口は平成20年が125,947,000人、平成19年が126,085,000人である

注:3) 用語の説明及び比率の算出方法については、第2章人口動態統計「利用上の注意」を参照されたい。

1 出 生

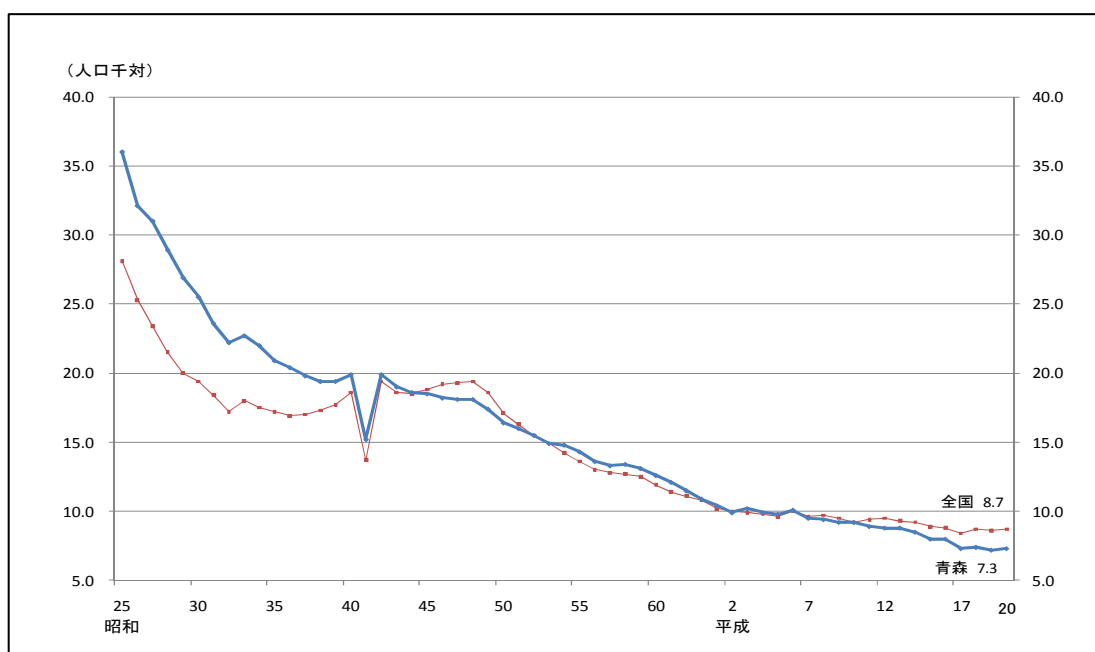
(1) 年 次 推 移

本県における出生率（人口千対）の推移を見ると、昭和25年の36.0をピークにその後は下降傾向を示し、昭和37年には20.0を、さらに平成2年には10.0を割った。平成7年以降は緩やかな減少が続いている。

平成20年の出生率は7.3で、前年の7.2を0.1ポイント上回っており、全国値の8.7より1.4ポイント下回っている。（図1）

また、本県の合計特殊出生率は1.30で、前年の1.28を0.02ポイント上回っており、全国値の1.37より0.07ポイント下回っている。

図1 出生率の年次推移



(2) 地域別出生

平成20年の市部の出生数は8,149人、郡部は2,038人であり、出生率（人口千対）は市部が7.6で郡部の6.3を1.3ポイント上回っている。

詳細は第2章第6表に記載されているので、参照されたい。

(3) 出生順位と母の年齢

平成20年に出生した子（死産を除く）が、その子の母の何番目に該当するかを表す出生順位別出生数の構成比は、第1子46.1%、第2子37.4%、第3子以上が16.3%となっており、第1子と第2子で全体の83.5%を占めている。（第2章第8表参照）

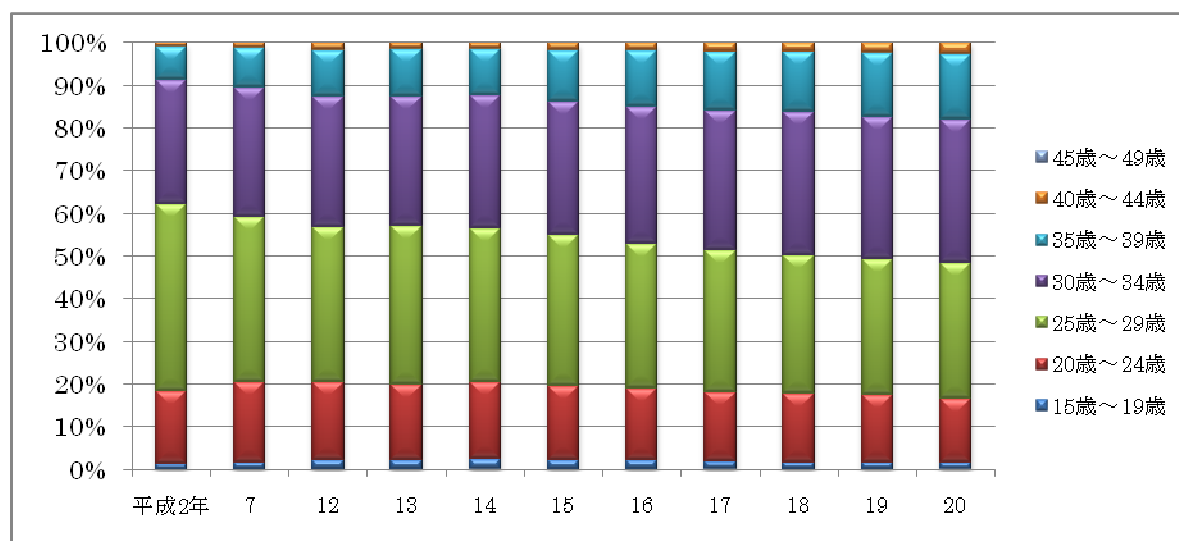
次に、平成20年における母の年齢階級別出生の構成比をみると、30歳から34歳が33.6%で最も高く、次いで25歳から29歳が31.8%となっている。（表2）

表2 母の年齢階級別出生の構成比

（単位：％）

年齢階級	平成2年	7年	12年	13年	14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年
15歳～19歳	1.4	1.7	2.3	2.2	2.4	2.3	2.2	1.8	1.7	1.7	1.6
20歳～24歳	16.9	18.7	18.3	17.8	18.1	17.2	16.8	16.4	16.1	15.8	14.9
25歳～29歳	43.9	38.7	36.3	37.0	36.0	35.3	33.8	33.0	32.4	31.9	31.8
30歳～34歳	29.1	30.4	30.5	30.5	31.0	31.1	32.4	32.8	33.5	33.3	33.6
35歳～39歳	7.7	9.3	10.9	11.2	11.0	12.1	13.0	13.7	14.0	15.0	15.2
40歳～44歳	1.0	1.2	1.6	1.4	1.4	1.8	1.9	2.2	2.2	2.3	2.7
45歳～49歳	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1

図2 母の年齢階級別出生の構成比



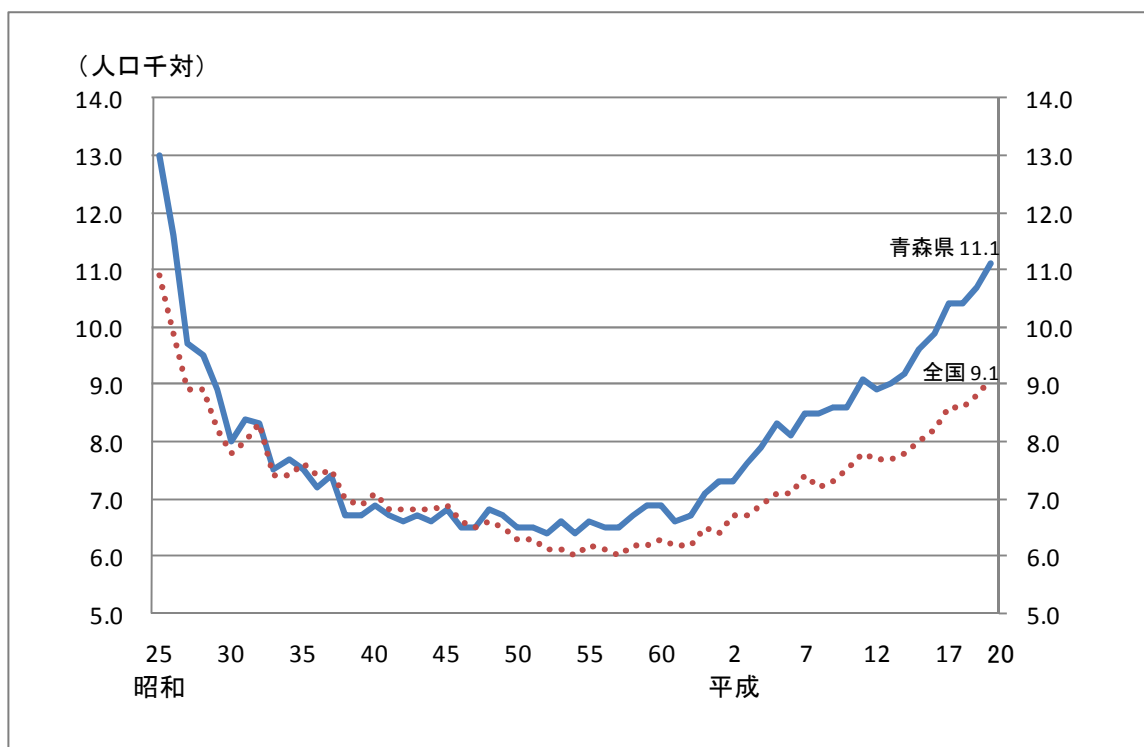
2 死 亡

(1) 年 次 推 移

本県における死亡率（人口千対）の推移をみると、昭和25年以降著しく低下し、昭和33年には8.0を割るまでに改善された。しかし、平成5年には再び8.0を上回り、その後は人口の高齢化を反映して上昇傾向を示している。

平成20年の死亡率は11.1で、前年の10.7より0.4ポイント上回っており、全国値の9.1より2.0ポイント上回っている。（図3）

図3 死亡率の年次推移



(2) 地 域 別 死 亡

平成20年の市部の死亡数は、11,159人、郡部が4,241人で、死亡率（人口千対）は、市部が10.4で郡部の13.0を2.6ポイント下回っている。

詳細は第2章第13表に記載されているので参照されたい。

(3) 主要死因

本県における主要死因の推移を年次別にみると、昭和 25 年に高かった「結核」が激減し、変わって昭和 27 年に「脳血管疾患」が 1 位となった。その後、「悪性新生物」と「心疾患」が増加し、昭和 57 年には「悪性新生物」が「脳血管疾患」を上回って 1 位になり、さらに昭和 61 年には「心疾患」が「脳血管疾患」を上回り、2 位になった。(図 4)

平成 20 年における本県の 10 大死因をみると、1 位が「悪性新生物 (がん)」、2 位が「心疾患」、3 位が「脳血管疾患」で、1 位から 3 位までで全死亡者の 58.1%を占めている。(表 3、図 5)

なお、男女別にみた主要死因の 1 位から 3 位は、男女とも同一要因によるものとなっている。(表 3)

表 3 死因順位別死亡数、率

(前年比較・全国比較)

死 因	青 森 県						全 国			
	平成 20 年			平成 19 年			差引増減 (A)-(B)	平成 20 年		
	順位	死亡者数 (A)	死亡率	順位	死亡者数 (B)	死亡率		順位	死亡者数	死亡率
総死亡者数		15,400	1109.5		14,968	1066.9	432		1,142,407	907.1
悪性新生物	1	4,646	334.7	1	4,598	327.7	48	1	342,963	272.3
心疾患	2	2,403	173.1	2	2,351	167.6	52	2	181,928	144.4
脳血管疾患	3	1,890	136.2	3	1,884	134.3	6	3	127,023	100.9
肺炎	4	1,639	118.1	4	1,503	107.1	136	4	115,317	91.6
自殺	5	473	34.1	6	469	33.4	4	7	30,229	24.0
不慮の事故	6	464	33.4	5	491	35.0	△ 27	5	38,153	30.3
老 衰	7	457	32.9	7	429	30.6	28	6	35,975	28.6
腎不全	8	414	29.8	8	354	25.2	60	8	22,517	17.9
糖尿病	9	235	16.9	9	237	16.9	△ 2	11	14,462	11.5
肝疾患	10	221	15.9	10	202	14.4	19	9	16,268	12.9
その他		2,558	184.3		2,450	174.6			217,572	172.7

注：)死亡者数は人、死亡率は人口 10 万対である。

(青森県男女別)

(平成 20 年)

死 因	男			女		
	順位	死亡者数	死亡率	順位	死亡者数	死亡率
総死亡者数		8,273	1266.9		7,127	969.7
悪性新生物	1	2,766	423.6	1	1,880	255.8
心疾患	2	1,150	176.1	2	1,253	170.5
脳血管疾患	3	924	141.5	3	966	131.4
肺炎	4	874	133.8	4	765	104.1
自殺	5	353	54.1	8	120	16.3
不慮の事故	6	308	47.2	7	156	21.2
老 衰	11	108	16.5	5	349	47.5
腎不全	7	190	29.1	6	224	30.5
糖尿病	9	128	19.6	9	107	14.6
肝疾患	8	142	21.7	10	79	10.7
その他		1,330	203.7		1,228	167.1

注：)死亡者数は人、死亡率は人口 10 万対である。

図4 主要死因別の死亡率の推移

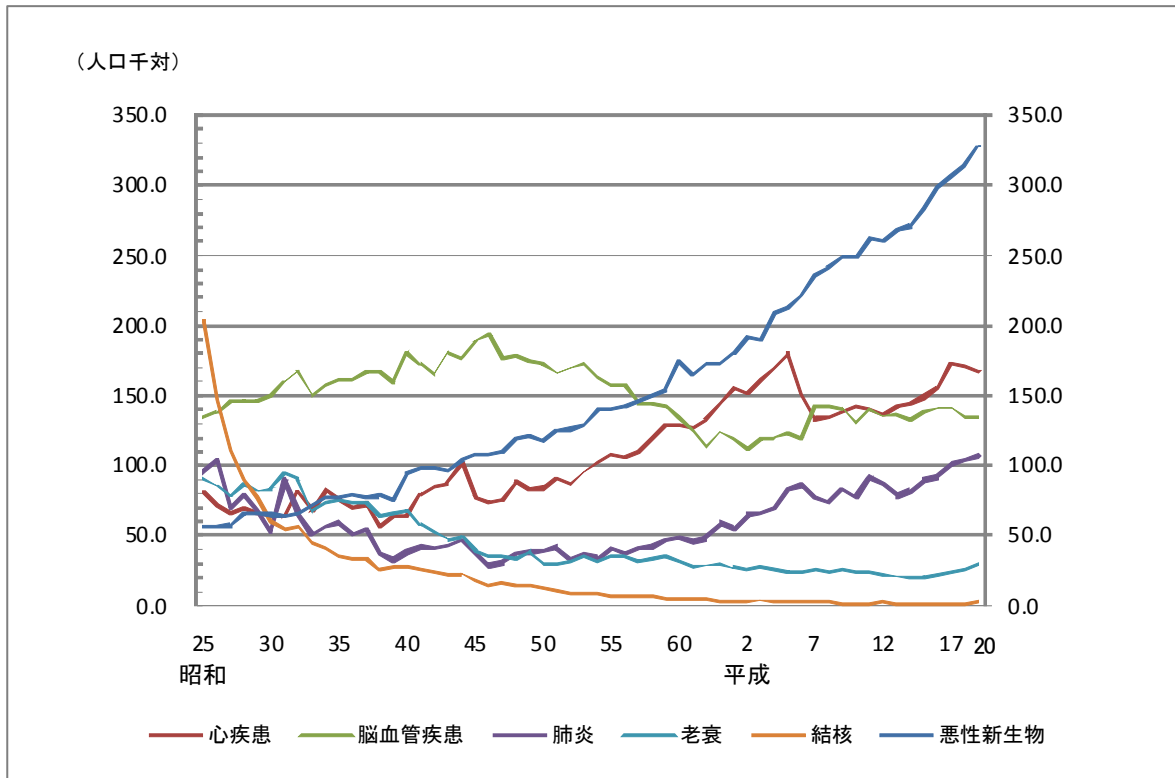
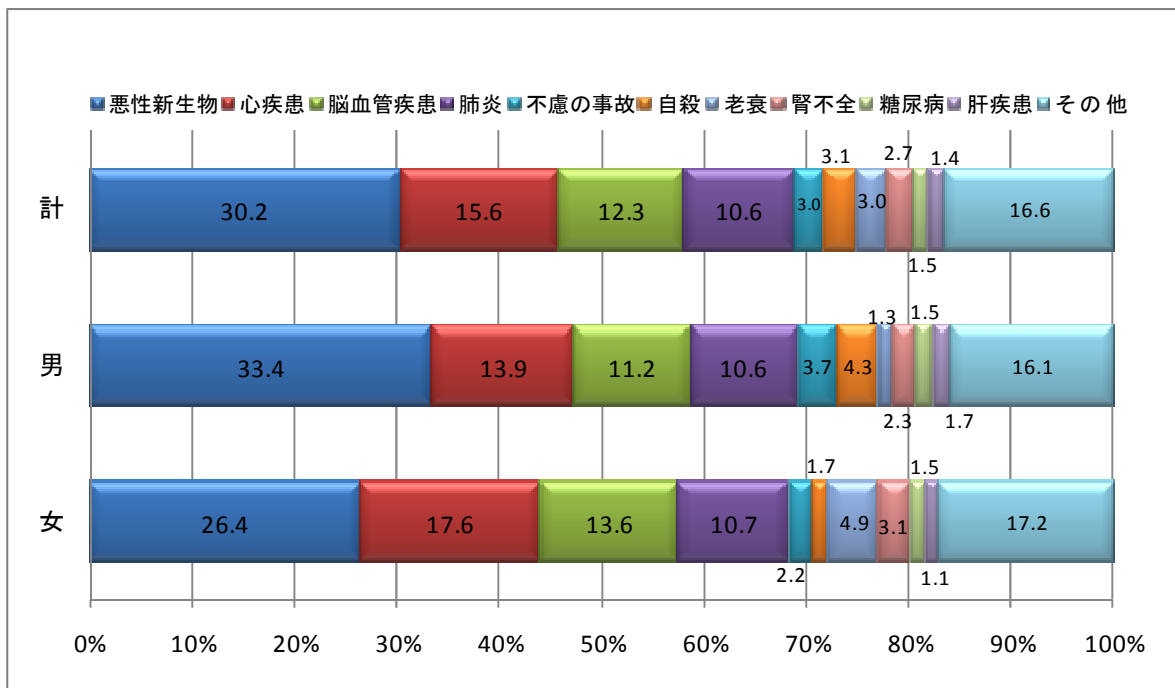


図5 10大死因の構成比



	悪性新生物	心疾患	脳血管疾患	肺炎	不慮の事故	自殺	老衰	腎不全	糖尿病	肝疾患	その他
計	30.2	15.6	12.3	10.6	3.0	3.1	3.0	2.7	1.5	1.4	16.6
男	33.4	13.9	11.2	10.6	3.7	4.3	1.3	2.3	1.5	1.7	16.1
女	26.4	17.6	13.6	10.7	2.2	1.7	4.9	3.1	1.5	1.1	17.2

(4) 悪性新生物（がん）

本県における悪性新生物による死亡率（人口千対）は、年々増加傾向にあり、平成 20 年は 334.7 で、全国値の 272.3 より 62.4 ポイント上回っている。

部位別では、「気管、気管支及び肺」、「胃」、「大腸」での死亡構成比が高く、これらで全体の 48.3%を占めている。（表 4）

表 4 悪性新生物（がん）部位別死亡率、構成比率（各年次）

		昭和 60年	平成 2年	7年	12年	16年	17年	18年	19年	20年
死 亡 率	悪性新生物	174.3	192.4	236.0	261.0	298.8	305.9	313.9	327.7	334.7
	食道	5.5	7.0	7.2	10.2	9.2	10.4	10.7	11.0	10.4
	胃	45.4	41.3	44.2	47.3	49.2	46.6	46.9	52.2	48.3
	結腸	-	-	9.0	22.2	29.8	28.3	28.8	30.2	32.2
	直腸S状結腸移行部 及び直腸 ²⁾	7.4	7.8	11.2	12.6	15.7	13.8	16.5	15.8	18.7
	肝及び肝内胆管 ³⁾	14.3	17.2	22.2	21.3	26.4	26.4	25.9	26.4	27.2
	胆のう及びその他の胆道	-	-	15.3	14.5	18.0	19.0	18.9	17.7	20.2
	膵	11.7	15.3	17.0	20.6	22.4	23.2	23.3	28.1	28.1
	気管、気管支及び肺	27.6	32.4	40.9	47.7	52.6	55.8	56.4	62.2	60.6
	乳房	5.3	4.5	7.0	7.7	9.5	9.1	11.5	10.9	11.0
	子宮 ⁴⁾	6.7	8.4	6.6	7.3	8.4	8.2	4.8	8.5	5.3
	白血病	4.0	4.5	4.7	3.9	4.6	4.2	5.7	5.6	5.7
	(再掲)大腸 ⁵⁾	-	-	30.2	34.8	45.4	42.2	45.2	46.0	50.9
構 成 比	悪性新生物	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	食道	3.2	3.6	3.1	3.9	3.1	3.4	3.1	3.4	3.1
	胃	26.0	21.5	18.7	18.1	16.4	15.2	16.4	15.9	14.6
	結腸	-	-	8.1	8.5	10.0	9.3	10.0	9.2	9.7
	直腸S状結腸移行部 及び直腸 ²⁾	4.3	4.0	4.7	4.8	5.2	4.5	5.2	4.8	5.7
	肝及び肝内胆管 ³⁾	8.2	8.9	9.4	8.1	8.8	8.6	8.8	8.1	8.2
	胆のう及びその他の胆道	-	-	6.5	5.5	6.0	6.2	6.0	5.4	6.1
	膵	6.7	8.0	7.2	7.9	7.5	7.6	7.5	8.6	8.5
	気管、気管支及び肺	15.8	16.8	17.3	18.3	17.6	18.2	17.6	19.0	18.3
	乳房	3.0	2.4	3.0	2.9	3.2	3.0	3.2	3.3	3.3
	子宮 ⁴⁾	2.0	2.3	1.5	1.5	1.5	1.4	1.5	1.4	1.6
	白血病	2.3	2.4	2.0	1.5	1.5	1.4	1.5	1.7	1.7
	(再掲)大腸 ⁵⁾	-	-	12.8	13.3	15.2	13.8	15.2	14.0	15.4

注：1) 死亡率は人口 10 万対、構成比は%である。なお、死亡率のうち、子宮は女性人口 10 万対である。

注：2) 平成 6 年までは、「直腸、直腸 S 状結腸移行部及び肛門」。

注：3) 平成 6 年までは「肝」。

注：4) 平成 6 年までは胎盤を含む。

注：5) 結腸と直腸 S 状結腸移行部及び直腸を含む。

表5 悪性新生物(がん) 部位別、死亡数、構成比、死亡率

(平成20年)

	死亡数			構成比			死亡率		
	総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女
口唇, 口腔及び咽頭	73	56	17	1.6	2.0	0.9	5.3	8.6	2.3
食道	144	129	15	3.1	4.6	0.8	10.4	19.8	2.0
胃	671	430	241	14.6	15.5	13.3	48.3	65.8	32.8
結腸	447	221	226	9.7	7.9	12.4	32.2	33.8	30.7
直腸S状結腸移行部及び直腸	260	167	93	5.7	6.0	5.1	18.7	25.6	12.7
肝及び肝内胆管	377	231	146	8.2	8.3	8.0	27.2	35.4	19.9
胆のう及びその他の胆道	281	135	146	6.1	4.9	8.0	20.2	20.7	19.9
膵	390	197	193	8.5	7.1	10.6	28.1	30.2	26.3
喉頭	23	20	3	0.5	0.7	0.2	1.7	3.1	0.4
気管, 気管支及び肺	841	619	222	18.3	22.3	12.2	60.6	94.8	30.2
皮膚	24	12	12	0.5	0.4	0.7	1.7	1.8	1.6
乳房	152	3	149	3.3	0	8.2	11.0	0.5	20.3
子宮 ¹⁾	74	・	74	1.6	・	4.1	5.3	・	10.1
卵巣 ¹⁾	51	・	51	1.1	・	2.8	3.7	・	6.9
前立腺 ¹⁾	141	141	・	3.1	5.1	・	10.2	21.6	・
膀胱	111	74	37	2.4	2.7	2.0	8.0	11.3	・
中枢神経系	27	13	14	0.6	0.5	0.8	1.9	2.0	1.9
悪性リンパ腫	106	57	49	2.3	2.0	2.7	7.6	8.7	6.7
白血病	79	51	28	1.7	1.8	1.5	5.7	7.8	3.8
その他のリンパ組織, 造血組織及び関連組織	49	28	21	1.1	1.0	1.2	3.5	4.3	2.9
その他	325	182	143	7.0	6.6	7.6	23.4	27.9	19.5
再掲) 大腸 ²⁾	707	388	319	15.2	14.0	17.0	50.9	59.4	43.4

注：1) 死亡数は人、構成比は%、死亡率は人口10万対(男女別では男女別人口10万対)である。

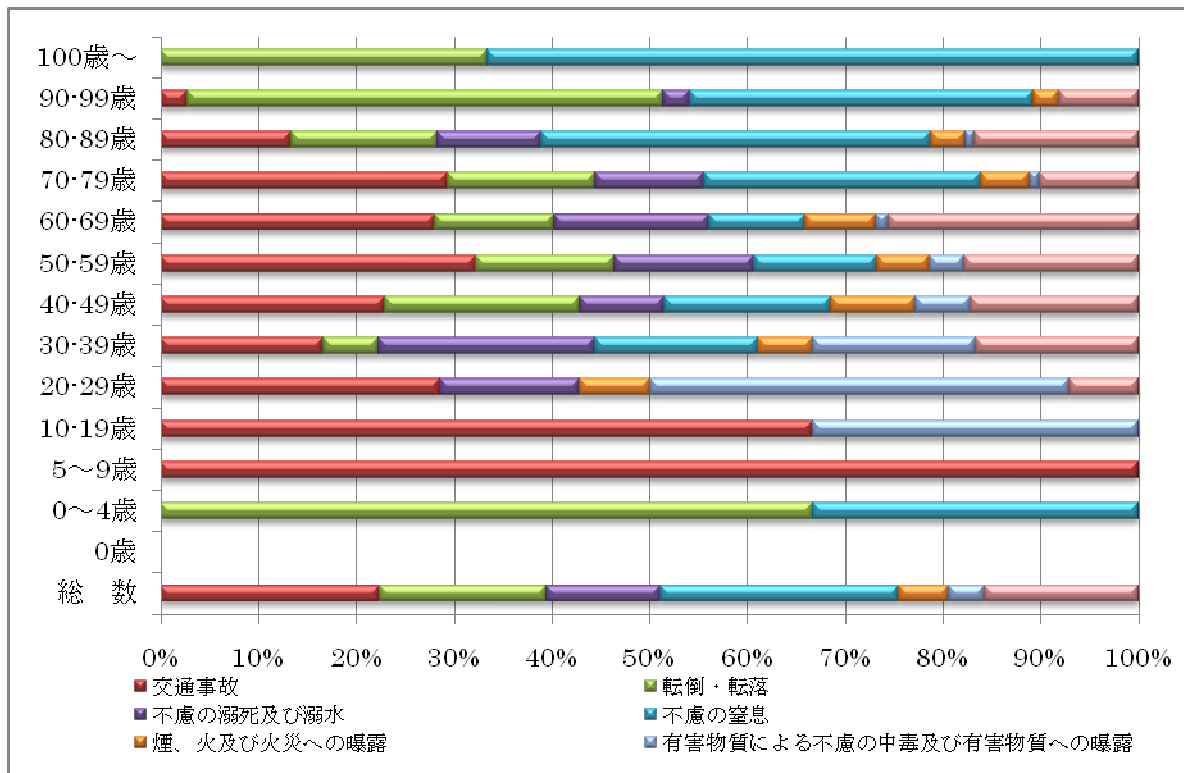
注：2) 結腸と直腸S状結腸移行部及び直腸を含む。

(5) 不慮の事故

本県の不慮の事故による死亡率(人口10万対)は33.4で、前年の35.0を1.6ポイント下回っており、全国値の30.3を3.1ポイント上回っている。

これを原因別構成比で見ると、「不慮の窒息」が24.4%と最も多く、次いで「交通事故」、「転倒・転落」、「不慮の溺死及び溺水」の順となっている。(図6)

図6 不慮の事故による死亡数の年齢階級別構成比



死亡数(人)	総数	0歳	0～4歳	5～9歳	10-19歳	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70-79歳	80-89歳	90-99歳	100歳～
不慮の事故	464	-	3	1	3	14	18	35	56	82	99	113	37	3
交通事故	104	-	-	1	2	4	3	8	18	23	29	15	1	-
転倒・転落	79	-	2	-	-	-	1	7	8	10	15	17	18	1
不慮の溺死及び溺水	54	-	-	-	-	2	4	3	8	13	11	12	1	-
不慮の窒息	113	-	1	-	-	-	3	6	7	8	28	45	13	2
煙、火及び火災への曝露	24	-	-	-	-	1	1	3	3	6	5	4	1	-
有害物質による不慮の中 毒及び有害物質への曝露	17	-	-	-	1	6	3	2	2	1	1	1	-	-
その他の不慮の事故	73	-	-	-	-	1	3	6	10	21	10	19	3	-
構成比(%)	総数	0歳	0～4歳	5～9歳	10-19歳	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70-79歳	80-89歳	90-99歳	100歳～
交通事故	22.4	-	-	100.0	66.7	28.6	16.7	22.9	32.1	28.0	29.3	13.3	2.7	-
転倒・転落	17.0	-	66.7	-	-	-	5.6	20.0	14.3	12.2	15.2	15.0	48.6	33.3
不慮の溺死及び溺水	11.6	-	-	-	-	14.3	22.2	8.6	14.3	15.9	11.1	10.6	2.7	-
不慮の窒息	24.4	-	33.3	-	-	-	16.7	17.1	12.5	9.8	28.3	39.8	35.1	66.7
煙、火及び火災への曝露	5.2	-	-	-	-	7.1	5.6	8.6	5.4	7.3	5.1	3.5	2.7	-
有害物質による不慮の中 毒及び有害物質への曝露	3.7	-	-	-	33.3	42.9	16.7	5.7	3.6	1.2	1.0	0.9	-	-
その他の不慮の事故	15.7	-	-	-	-	7.1	16.7	17.1	17.9	25.6	10.1	16.8	8.1	-

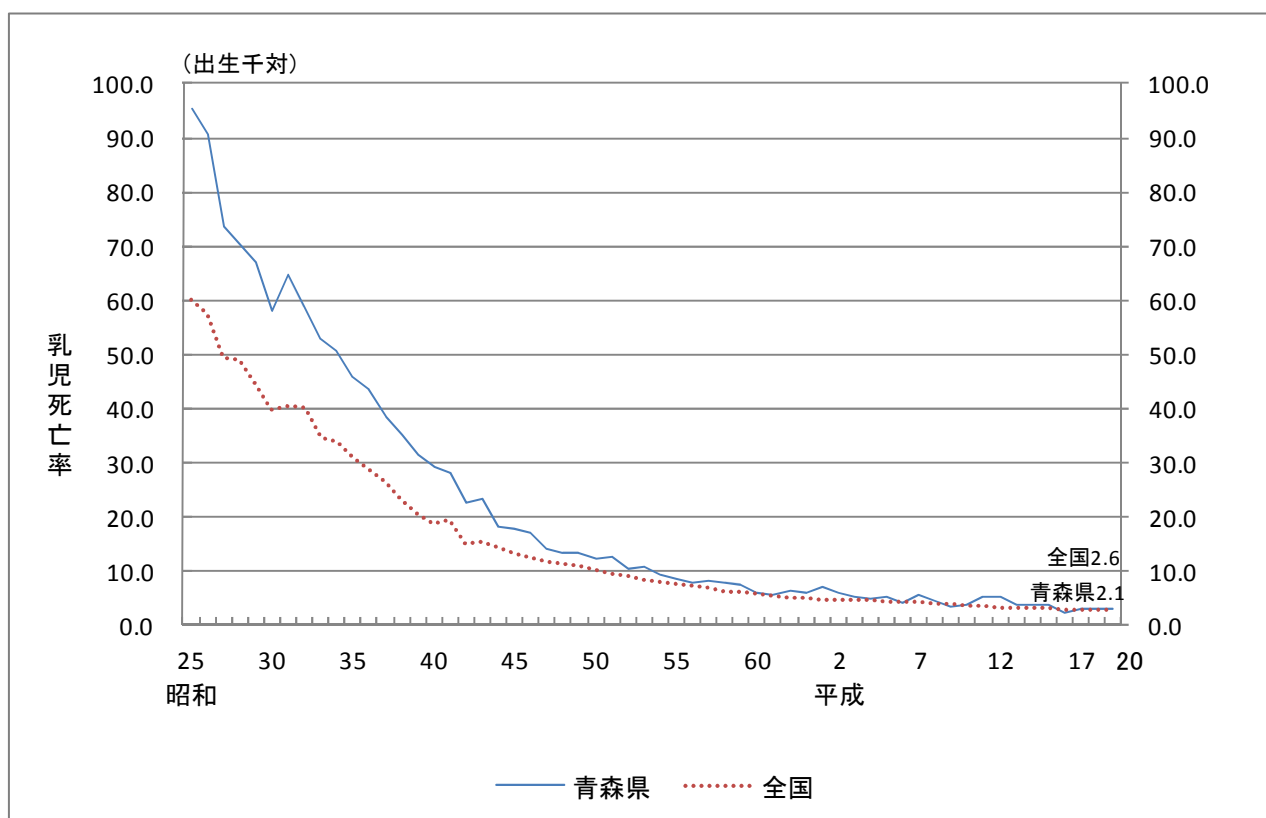
3 乳 児 死 亡

(1) 年 次 推 移

本県における乳児死亡率（出生千対）は、昭和25年は96.5であったが、その後大幅に改善され、昭和54年には10.0を割るまでになり、以降も低下を続けたが、平成4年以降は横ばいの状態が続いている。

平成20年の乳児死亡率は2.1で、前年の2.6より0.5ポイント下回っており、全国値の2.6より0.5ポイント下回った。（図7）

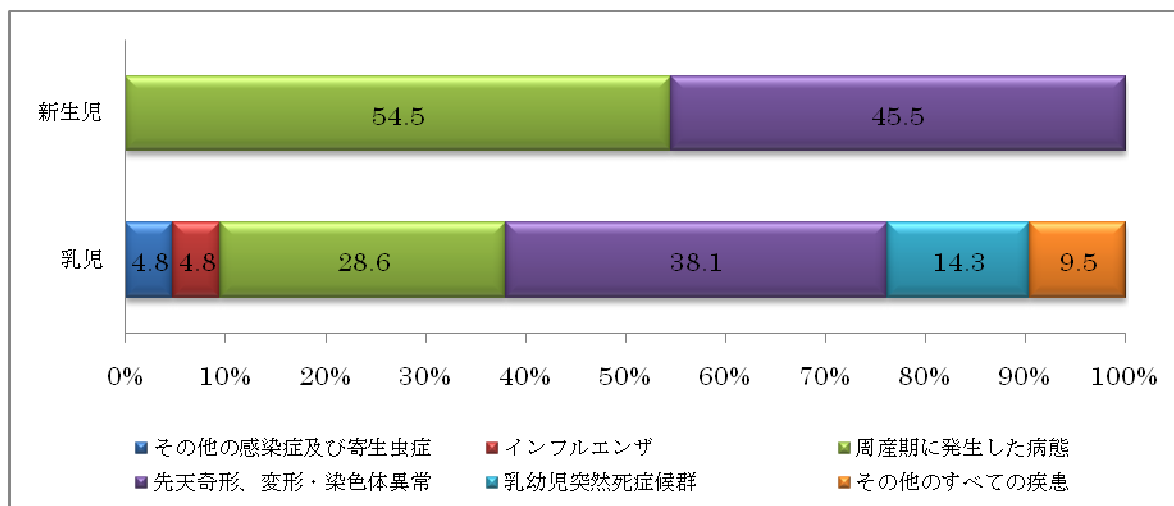
図7 乳児死亡率の年次推移



(2) 乳児死亡の主要原因

平成 20 年の乳児死亡を主要死因別構成比で見ると、「周産期に発生した病態」が最も高く、次いで「先天奇形、変形及び染色体異常」「乳幼児突然死症候群」となっている。(図 8)

図 8 乳児及び新生児死亡率の主要死因構成比



4 新生児死亡

(1) 年次推移

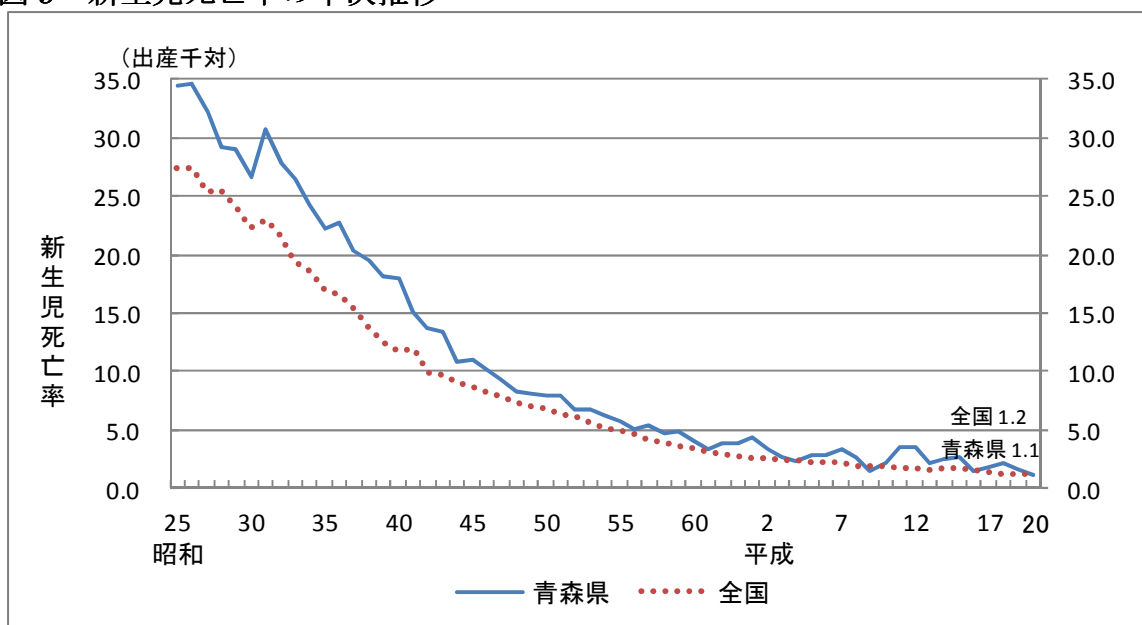
新生児死亡率（出生千対）は、昭和26年以降、乳児死亡率と同様に、増加と減少を繰り返しながら緩やかに減少している。

平成20年の新生児死亡率は1.1で、前年の1.7より0.6ポイント下回っており、全国値の1.2より、0.1ポイント下回っている。（図9）

(2) 新生児死亡の主要死因

平成20年の乳児死亡を主要死因別構成比で見ると、「周産期に発生した病態」が最も高く、次いで「先天奇形、変形及び染色体異常」となっている。（図8）

図9 新生児死亡率の年次推移



5 死 産

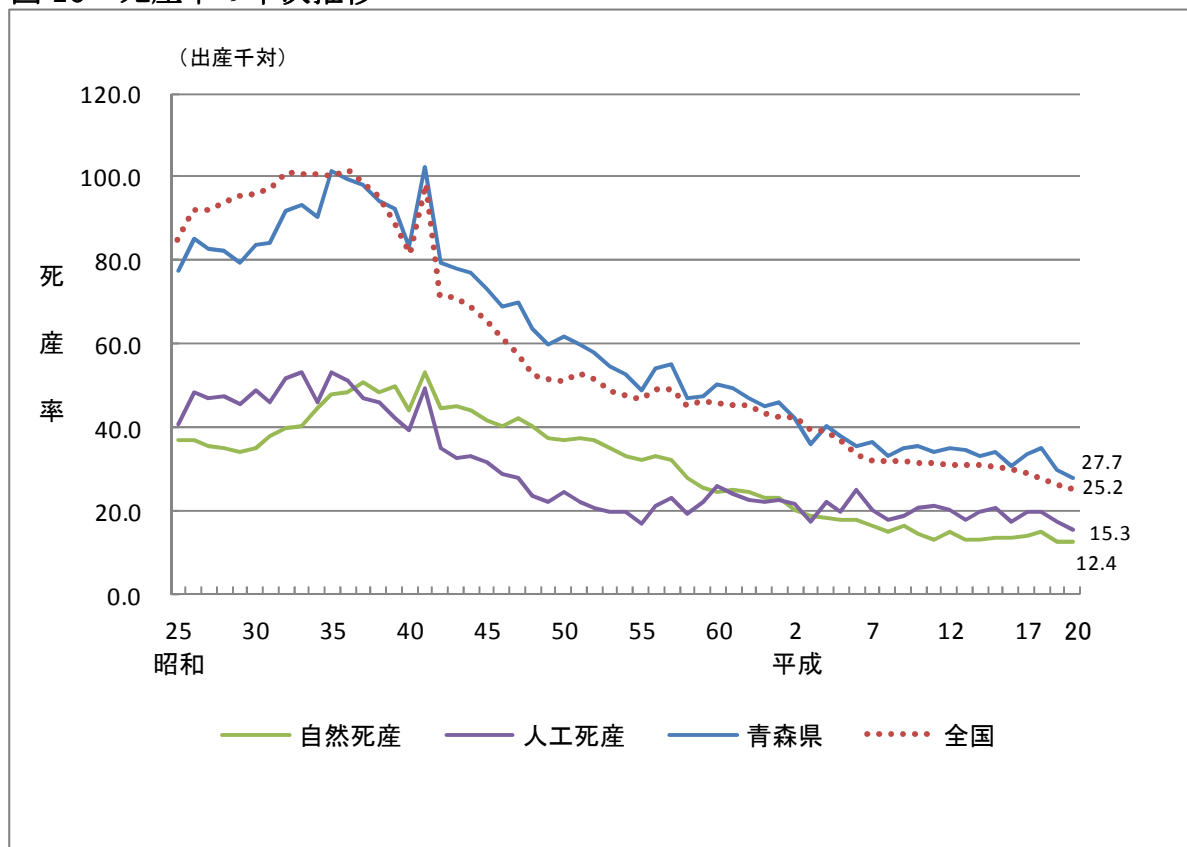
本県における死産率（出産千対：（出生＋死産）千対）は、昭和 25 年以降上昇傾向にあったが、その後、昭和 35 年をピークに下降した。一方、昭和 41 年（ひのえうま年）には急激に上昇し 102.3 となった。

なお、死産率のうち、自然死産率は昭和 41 年をピークに緩やかな減少傾向を示している。人工死産率は昭和 55 年に 20.0 を大きく下回ったものの、その後は再び 20.0 前後で推移し、横ばいの状況となっている。（図 10）

平成 20 年の死産率は 27.7 で、前年の 29.7 より 2.0 ポイント下回っており、全国値の 25.2 より 2.5 ポイント上回っている。（図 10）

また、自然死産率は 12.4 で、前年の 12.5 より 0.1 ポイント下回っており、人工死産率は 15.3 で、前年の 17.2 より 1.9 ポイント下回っている。

図 10 死産率の年次推移

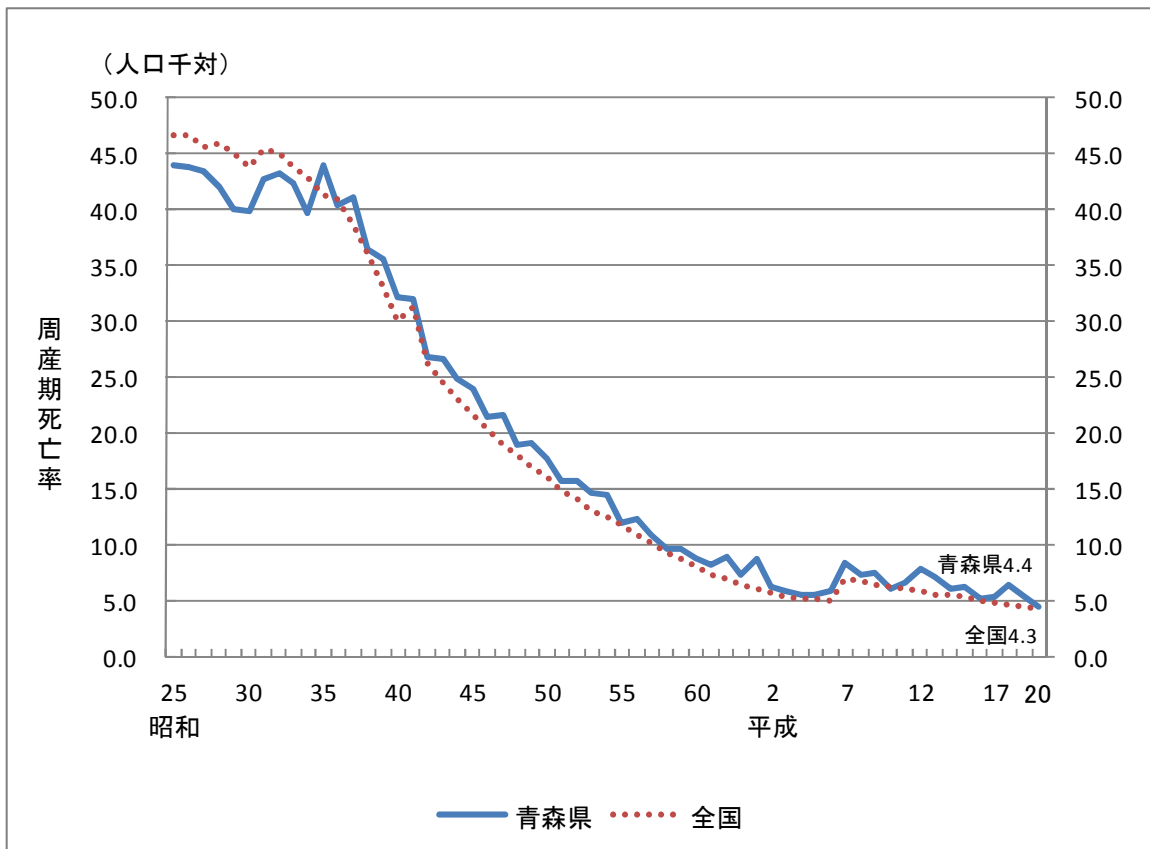


6 周産期死亡

本県における周産期死亡率は、昭和 37 年まで 40.0 ポイント台で推移してきたが、昭和 38 年以降大幅に低下してきた。

平成 20 年の周産期死亡率は 4.4 で、前年の 5.4 より 1.0 ポイント下回っており、全国値の 4.3 より 0.1 ポイント上回っている。(図 11)

図 11 周産期死亡率の年次推移



注：1) 周産期死亡は、「妊娠満 22 週以後の死産と早期新生児を加えたもの」から「妊娠満 22 週以後の死産と早期新生児死亡を加えたもの」に改正された。

注：2) 周産期死亡率は、平成 6 年までは出生千対。平成 7 年以降は、出産千対（出生＋妊娠満 22 週以後の死産の千対）。

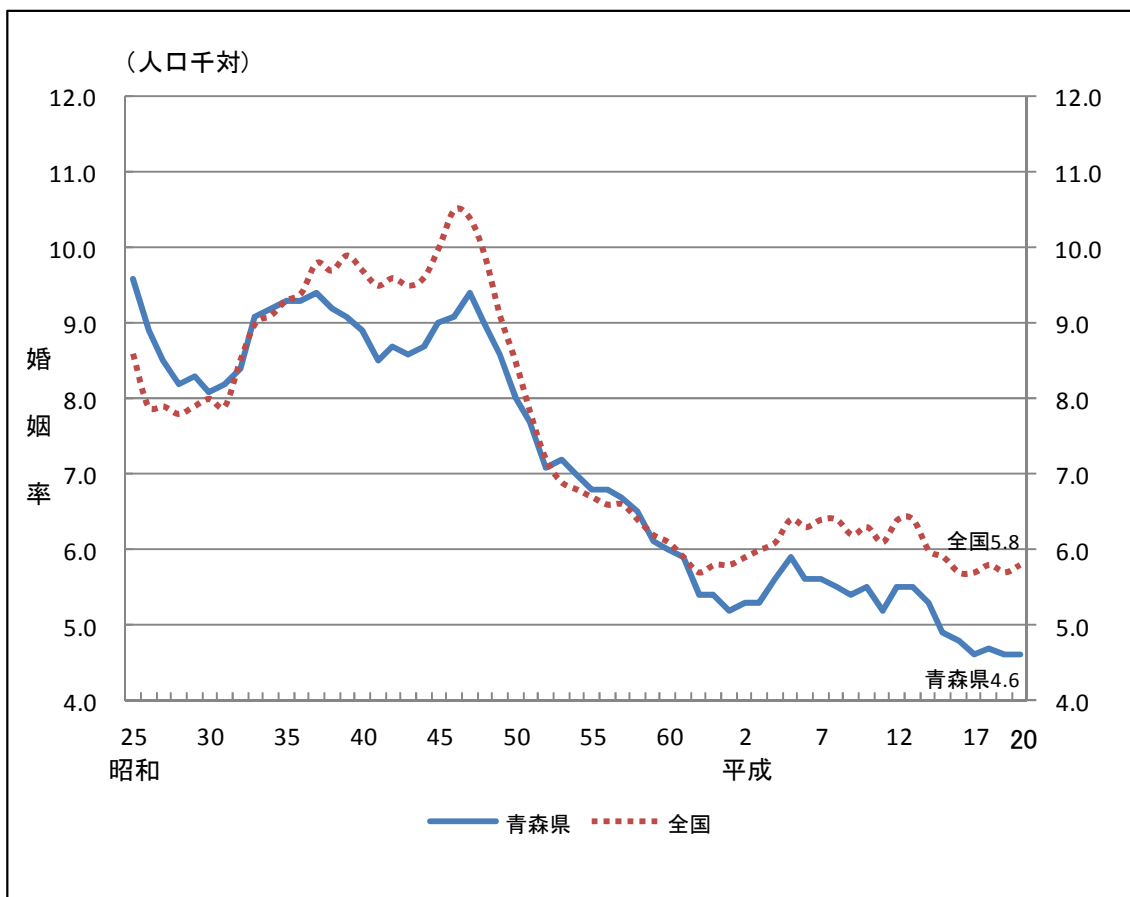
7 婚 姻

(1) 年 次 推 移

本県における婚姻率（人口千対）は、昭和 25 年以降 8.0～10.0 前後で推移していたが、昭和 47 年から下降傾向を示しており、昭和 61 年には 6.0 を割り込んだ。

平成 20 年の婚姻率は 4.6 で、前年の 4.6 と同率で、全国値の 5.8 より 1.2 ポイント下回っている。（図 12）

図 12 婚姻率の年次推移

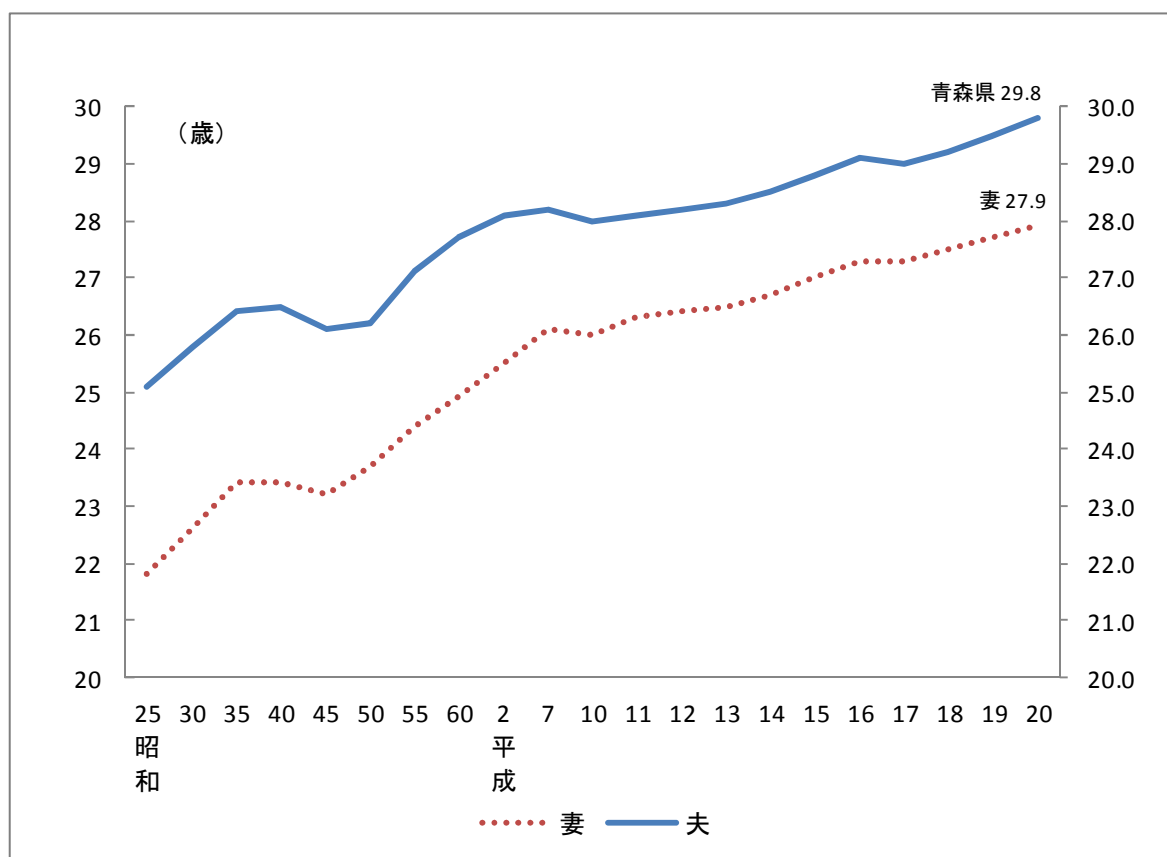


(2) 平均初婚年齢

本県における平均初婚年数について、昭和 25 年以降の年次推移をみると、夫、妻ともに年齢が高くなっている。(図 13)

平成 20 年の平均初婚年齢（平成 20 年に結婚生活に入ったもので、結婚式を挙げた時、または同居を始めた時の年齢）は、夫が 29.8 歳、妻が 27.9 歳であり、全国値の夫 30.2 歳、妻 28.5 歳より、夫が 0.4 歳、妻が 0.6 歳下回っている。

図 13 平均初婚年齢の年次推移



注：各年に同居し届け出たものについての集計である。

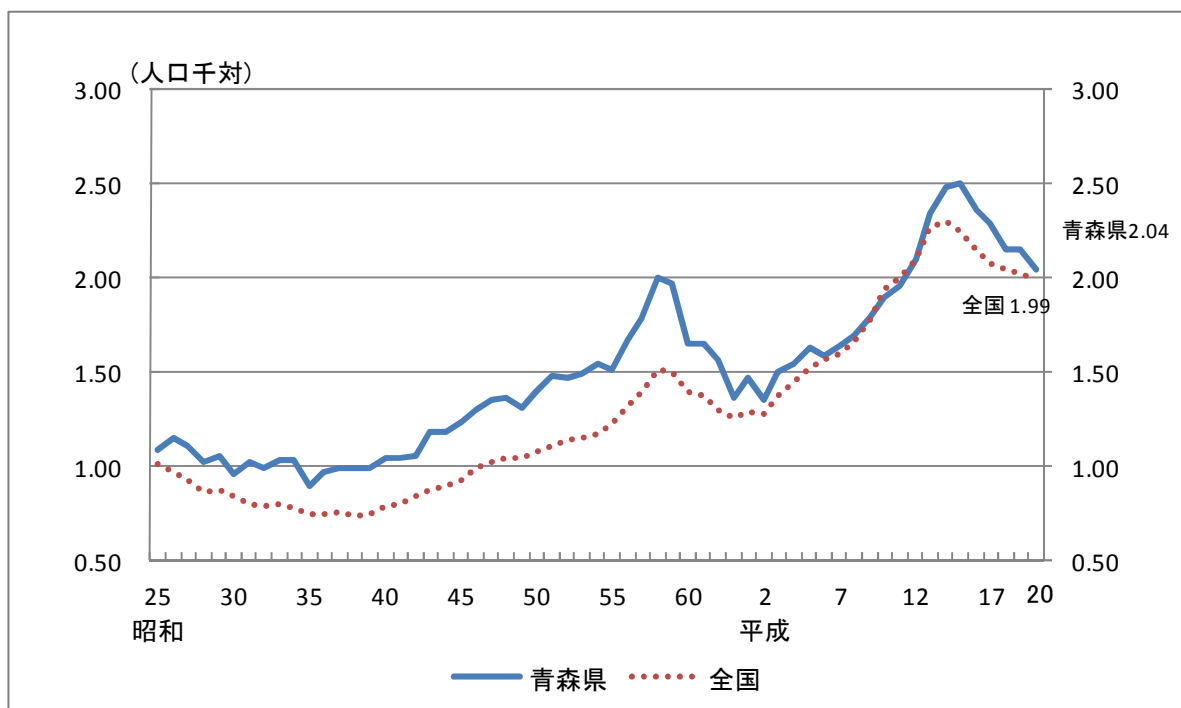
8 離 婚

(1) 年次推移

本県における離婚率（人口千対）は、昭和 25 年以降横ばい状況が続いたが、昭和 40 年代から上昇し、昭和 58 年には 2.0 となった。それ以降は下降傾向を示していたが、平成 3 年から再び上昇したものの平成 16 年から減少傾向を示している。

平成 20 年の離婚率は 2.04 で、前年の 2.15 より 0.11 下回っており、全国値の 1.99 より 0.05 ポイント上回っている。（図 14）

図 14 離婚率の年次推移



(2) 離婚した夫婦の同居期間

平成 20 年の離婚件数 2,828 件のうち、結婚 5 年未満で離婚した件数の構成比は 31.5%で最も多く、次いで 5～10 年の 23.1%、20 年以上の 17.9%の順となっている。（表 6）

表 6 離婚件数、同居期間別構成比

(単位：%)

同居期間	平成 2 年	7 年	12 年	15 年	16 年	17 年	18 年	19 年	20 年
0～5 年	32.5	36.4	36.7	34.4	34.1	32.1	34.6	33.1	31.5
1 年未満	7.6	7.1	6.5	5.8	5.5	5.5	5.8	6.0	5.9
1～2 年	7.2	9.3	8.4	7.6	7.5	7.5	8.1	6.9	6.5
2～3 年	6.5	8.2	7.7	7.6	7.6	7.6	6.7	7.4	6.9
3～4 年	5.7	6.1	7.9	6.6	7.4	7.4	7.0	6.5	6.8
4～5 年	5.5	5.8	6.2	6.8	6.1	6.1	6.9	6.4	5.5
5～10 年	20.7	19.0	22.4	21.8	22.5	23.0	23.4	23.6	23.1
10～15 年	16.1	13.2	11.0	13.2	12.9	13.9	12.6	14.0	14.0
15～20 年	13.2	11.0	8.5	10.0	9.7	9.9	9.0	9.8	9.6
20 年以上	17.3	18.9	18.1	19.6	20.0	19.2	18.5	17.4	17.9
不詳	0.2	1.5	3.4	1.0	2.9	2.0	1.9	2.1	3.8

第2 医療統計の概要

1 医療施設

(1) 病院数

平成20年10月1日現在の病院数は105施設で、前年の106施設より1施設減少している。人口10万対では7.5（全国6.9）で、前年と同率となっている。（全国も前年と同率。）

(2) 一般診療所数

平成20年10月1日現在の一般診療所数は938施設で、前年の969施設より31施設減少している。人口10万対では67.4（全国77.6）で、前年より1.5ポイント減少している。（全国は0.3ポイント減少。）

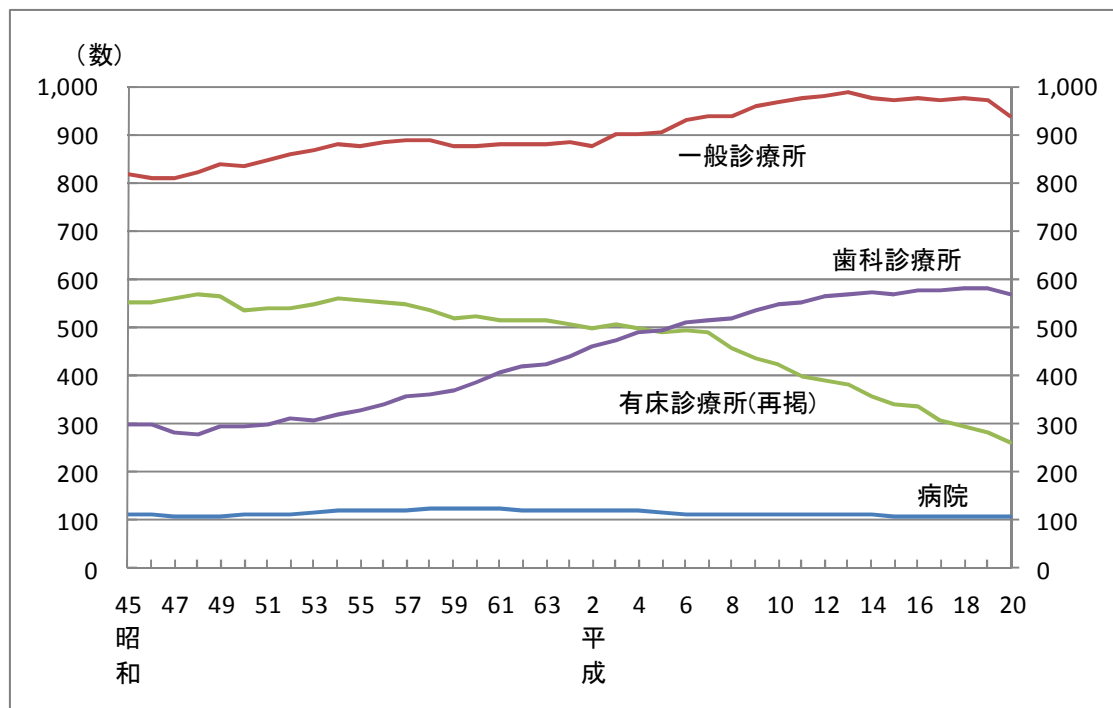
そのうち、有床診療所は259施設で、一般診療所全体の27.6%（全国11.6%）を占め、前年より24施設減少している。

また、無床診療所は679施設で、一般診療所全体の72.4%（全国88.4%）を占め、前年より7施設減少している。

(3) 歯科診療所数

平成20年10月1日現在の歯科診療所数は570施設で、前年の579施設より9施設減少している。人口10万対では40.9（全国53.1）で、前年より0.3ポイント減少している。（全国は同率。）

図1 医療施設数の年次推移



2 医師・歯科医師・薬剤師

(1) 医師

平成 20 年 12 月 31 日現在の医師数は 2,563 人であり、前回調査の平成 18 年に比べ、2 人増加している。

また、人口 10 万対では 184.1 であり、平成 18 年に比べ、4.1 ポイント増加している。これを全国値の 224.5 と比較すると、40.4 ポイント少なく、全国順位は 43 位である。

表 1 医師数の年次推移

(単位：人)

		平成 2年	4年	6年	8年	10年	12年	14年	16年	18年	20年
青森県	医師数	2,269	2,331	2,377	2,432	2,487	2,516	2,564	2,522	2,561	2,563
	人口 10万対	153	158.4	161.6	164	168.3	170.5	174.5	173.7	180.0	184.1
全国	医師数	211,797	219,704	230,519	240,908	248,611	255,792	262,687	270,371	277,927	286,699
	人口 10万対	171.3	176.5	184.4	191.4	196.6	201.5	206.1	211.7	217.5	224.5

(2) 歯科医師

平成 20 年 12 月 31 日現在の歯科医師数は 789 人であり、前回調査の平成 18 年に比べ、12 人増加している。

また、人口 10 万対では 56.7 であり、平成 18 年に比べ 2.1 ポイント増加している。これを全国値の 77.9 と比較すると、21.2 ポイント少なく、全国順位は 42 位である。

表 2 歯科医師数の年次推移

(単位：人)

		平成 2年	4年	6年	8年	10年	12年	14年	16年	18年	20年
青森県	歯科 医師数	614	634	681	708	730	717	758	757	777	789
	人口 10万対	41.4	43.1	46.3	47.7	49.4	48.6	51.6	52.1	54.6	56.7
全国	歯科 医師数	74,028	77,416	81,055	85,518	88,061	90,857	92,874	95,197	97,198	99,426
	人口 10万対	59.9	62.2	64.8	67.9	69.6	71.6	72.9	74.6	76.1	77.9

(3) 薬剤師

平成 20 年 12 月 31 日現在の薬剤師数は 1,882 人であり、前回調査の平成 18 年に比べ、86 人増加している。

また、人口 10 万対では 135.2 であり、平成 18 年に比べ 9.0 ポイント増加している。これを全国値の 209.7 と比較すると、74.5 ポイント少なく、全国順位は 47 位である。

表 3 薬剤師数の年次推移

(単位：人)

		平成 2年	4年	6年	8年	10年	12年	14年	16年	18年	20年
青森県	薬剤師数	1,166	1,237	1,347	1,422	1,519	1,556	1,684	1,724	1,796	1,882
	人口 10万対	78.6	84	91.6	95.9	102.8	105.4	114.6	118.7	126.2	135.2
全国	薬剤師数	150,629	162,021	176,871	194,300	205,953	217,477	229,744	241,369	252,533	267,751
	人口 10万対	121.9	130.2	141.5	154.4	162.8	171.3	180.3	189.0	197.6	209.7